

Contents — 目次 —

第1部

JAの組織、機能、人材育成とその配置、 そして必勝体制はいかにあるべきか

研究会報告① JA人づくり研究会代表 今村 奈良臣(東京大学 名誉教授)

1-1	「学問とは仮説をたてる能力である」 (故桑原武夫・京都大学人文科学研究所名誉教授)	6
1-2	それぞれの立場で「仮説」を設定する	14
1-3	JAの組織、機能、人材配置、そして必勝体制はいかにあるべきか — サッカーを通して考える = 今村仮説 —	15
1-4	さらに重要なことは	17
1-5	JA-IT研究会の研究実践の成果を通して考える	19

第2部

JAの総合力発揮を支える人材づくりと地域システム構築 — “人由来組織”であるJAは如何に組合員・役職員・地域住民と 価値体系を共有した協同活動を実践するか

研究会報告② JA人づくり研究会副代表 黒澤 賢治(JA甘楽富岡 理事)

2-1	営農センターを砦としている	32
2-2	売り先別の生産部会	33
2-3	自主運営と参画による本格的な協同活動	34
2-4	直販システムが高齢者の安否確認システムに	34
2-5	JICAの海外協力隊員の最終研修受託と双方向の学習活動	35
2-6	単品ではない文化としての和食	35
2-7	成功の秘訣は加工のトレーニングセンター	36
2-8	JAは仕事興しセンターに	38
2-9	組合員の意向を丁寧に聞く	39
2-10	CVS戦略に要注意	39
2-11	JRの「エキュート戦略」への対応	40
2-12	JAの外部での体験型学習が重要	41
2-13	組合員の皆さんが研修も自主運営する	42
2-14	6次産業化にはJAに商品開発委員会が必要	43
2-15	JA改革の基本ルール15項目を共有化	44
2-16	JA間連携を	45

**東日本大震災を乗り越えて
—復興は支店を核とした相互扶助と農業振興から—**

研究会報告③ JA人づくり研究会副代表 高橋 勉 (JAいわて花巻 代表理事専務)

3-1	JAいわて花巻の概要 (平成24年度末現在)	48
3-2	東日本大震災後の現状	50
3-3	大槌町農業の現状	50
3-4	復興組合の設立	51
3-5	災害時の拠点としての直売所	52
3-6	農業の再生へ、復活の思いが生んだ 「復興の赤い果実」	52
3-7	見直された沿岸の野菜栽培	53
3-8	将来の夢	53
3-9	直売所の早期再開は、震災時の被災者や市民生活を大きく変える	53
3-10	新設の直売施設に期待	54
3-11	組合運動の拠点としての支店、営農センター建設	54
3-12	復興の追い風に 岩手県としても沿岸の直売所を応援	55
3-13	再建した釜石支店・大槌支店・鶴住居支店	55
3-14	組合員と心でつなぐ協同	56
3-15	被災した沿岸支店の行動計画	56
3-16	震災2年目 防災意識の薄れ	57
3-17	危機管理マニュアルの見直し	58
3-18	復興支援から見えてきたもの	58
3-19	JAいわて花巻のくらしの活動の実践	59
3-20	支店を核とした活動戦略	59
	質疑応答	61

資料

1	今村奈良臣 第17回 JA人づくり研究会 レジューメ	68
2	黒澤賢治 第17回 JA人づくり研究会 レジューメ	106
3	人づくり研究会について	110